

2147

5

給字本袋

四

給字本袋四



後中寫像貸四之書目録

伏犧之聖像

叙畫之源流

精湯達王母像

平辨文婦登仙之書

吳初帝之之像

附黃帝制冕旒宸極之

禹王治洪水書

龍馬出現之書

女媧氏征共工氏書

黃帝滅蚩尤書

附指南東始之書

倉頡制字書

棟鼓之書

黃龍負禹王舟書

寫錦袋四

二龍降射門書

伊尹之書像

雲中子之像

文王姜氏熊罴

并劉累醢龍肉書

傳說之像

呂尚釣磻溪書

并文王始太公書

繪本寫室袋口之卷

孟行龍子也現一危義氏河圖之始也

古者遠人氏乃女懷妊也而事十六月之久伏義之生
 長也其長三丈六尺骨蛇の如く服虎の如く仰射也
 又其親俯則法之地は纏る網罟と俗で魚多と云ふ蓋
 蓋て危厨と老万民大よりあり樂と推て云ふは此也
 下は龍子現るを形龍小似て其に纏る生は云ふ八人寸
 兩翼のそめとを走と奉地は此に背の上より乃其通
 帝とから群臣と曰いほ色小なり其は見視して曰く
 朕天下と治て也而心朕と龍と見入るは彼後と息て民
 君すこと勿之背との龍は民と無心と我と云ふ是
 龍神の六は忽息と龍の頭と河色に現る帝と意
 受用て見ゆて其の内は河色は君と龍と意一變て六十
 四卦と云つて以て神の徳は通じ万物の情も是も易の始

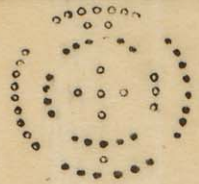
寫錦袋四

太昊帝伏犧之聖像



伏羲畫卦像多圖故除茲上古人相荒レク
 麻綿ノ類ナク衣物冠賜等定ナレ故木
 葉蒲芦獸皮鳥羽ヲ穿ト也今圖スル像多
 本文ノ文ニヨリテ帝ノ像ナレハ少ノ替アリ

河圖



寫錦袋四

叙畫之源流

畫ハ伏羲ノ河圖ヲ得八卦ヲ畫タニフヨリ初ル卦ノ象畫也是時
 象鳥ノ形ヲ畫テ書畫同體辨繪ヲ明ニシ至フ畫成教法助入倫
 窮神變與六籍同切ト云リ古人ノ言ニ宣物莫大於言存形莫善
 於畫此之謂也又曰繪ニ畫圖寫ノ三象有畫ハ画ノ惣名画ノ草也
 圖ハ画ノ行寫ハ画ノ真也又曰畫ハ是有形ノ詩也異名ヲ無声ノ詩
 トモ名ク繪ノ神ナルコト風雲雨雪ヲ寫シ四時ノ景候萬物ノ形ヲ
 目前ニ出シ五里ヲ尺寸ノ間ニ象ル不見人ヲ寫シ道ノ守トス是聖
 人ノ初至フ故也亦曰五聖ノ像ヲ畫時ハ必龍馬ヲ畫ク俗麒麟ト云非
 麟龍馬也伏羲畫卦タニニヨル故也亦孔子四亞下哲連圖六麟ヲ畫
 代々麟ト龍馬ト形ヲ畫誤ル予ニ才圖會孔門ノ書其外諸書ニ出ヲ
 見ニ昔ヨリ麟ト名形ハ龍馬也圖會云昔伏羲ノ時孟河ニ龍馬出龍ニ
 似テ馬ニ似身ニ鱗甲起有長八尺背上一八卦ヲ負ト其圖龍首馬形
 麟甲ヲ畫ク又一書ニ龍馬黃河ニ出身ニ旋毛有河圖是也ト云リ
 龍馬三角火勢弩鬚背鬚ヲ畫ハ龍ニ似ト云文勢ニヨツテ畫モノ也

共云氏礼と起一女婿氏を是と祀一小事

女婿氏ハ伏羲の妹アリ賢女なれば伏羲帝の后群臣
推て帝位小所身加之雲の紫雲花の彩窟祀と云成やの
方りたれハ見吾を如と動さばと云と一々時法候共云氏
康圃といハ者あり深く卦文成昭々の徳神に道と知れ之
臨樂と好之女婿氏小患慕一々れと云と女皇後たさるる也
至に係教して礼と化と女皇栢皇氏史皇氏と云先傳とて
大ニ我ハ康圃の術と仍ハ河水天ニ融ア女皇人る利と
失ハ意回ハ正と絶るると我々の一栢皇史皇ハ水ニ流り道
退さるる也小南方の流儀ハ祝融といハ老人能天文地理極
中術康圃ハ傍りたり女皇の軍制ありさる事と傍り山と
小なり杖とて我教のハ一也官軍老とのる康圃也之祝融
と射殺さんと云と故なる時祝融忽白露也一飛去鳥祝融
三万余路と云一康圃と妻亡一天下大ニ治ると云ん

共工氏波と弭り祝融と対の圖



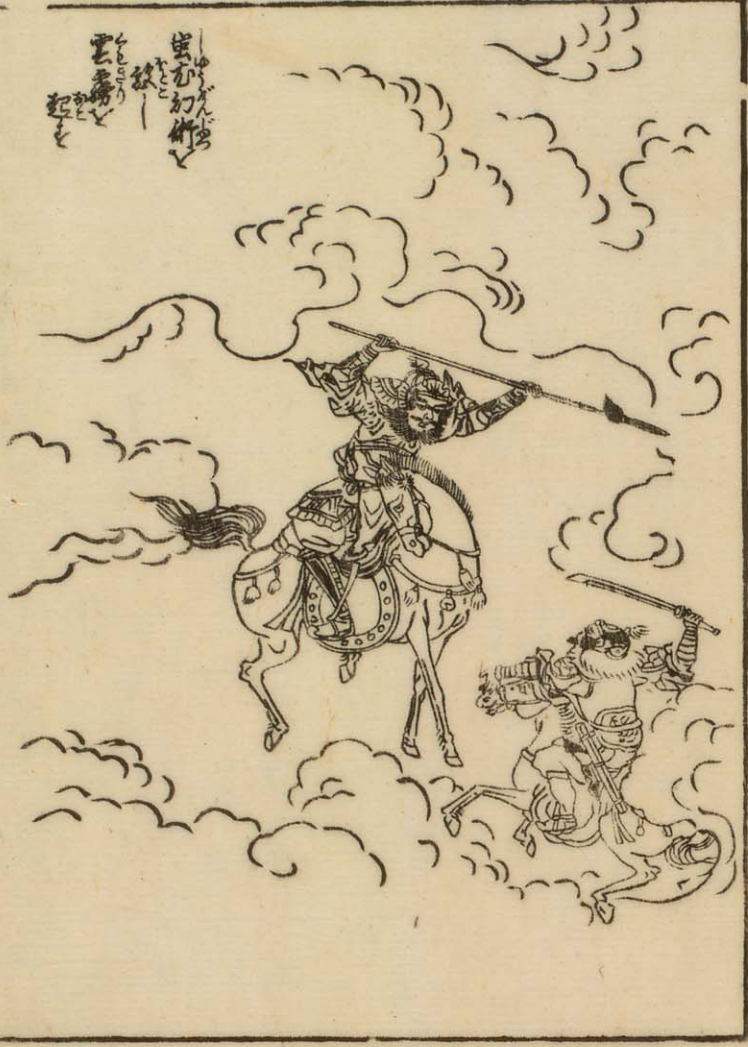
黃帝與蚩尤涿鹿之戰

黃帝指南車之制也

博古ニ曰北山ニ石アリ磁石ト云
 鐵針ニスリ付テ水ニテ浮ルニ針
 水上ニテ南北ヲ指ス黃帝コレヲ
 用ヒ指南車ヲ制スト云
 指南車ハ今ノ磁針ナリ入飛輪
 ノ作ナリ



雲
 雲
 雲



炎帝滅蚩尤并始作指南車と伝ひたり
 炎帝神農より八代の帝と論云と云けし時又高て蚩尤と云
 遂に画と謀りて乱伐真し化候と夷ありりて天下と動
 揺と帝不徳とて割とると能のれ故小て涿廉(邈)个
 久蚩尤(邈)入位小坐一布て涿廉と政てお困と云
 帝の(邈)一(邈)に炎帝(邈)後裔小有然(邈)志(邈)の子軒(邈)核(邈)と云
 人あり徳(邈)と(邈)さめて人民(邈)報(邈)一三万(邈)路(邈)の(邈)兵(邈)然(邈)帝(邈)
 援(邈)の(邈)蚩(邈)尤(邈)大(邈)軍(邈)一突(邈)く(邈)入(邈)蚩(邈)尤(邈)用(邈)と(邈)真(邈)一(邈)黨(邈)と(邈)切(邈)て(邈)軒(邈)核(邈)を(邈)我
 と(邈)百(邈)余(邈)合(邈)蚩(邈)尤(邈)打(邈)破(邈)て(邈)走(邈)ら(邈)う(邈)包(邈)妖(邈)術(邈)と(邈)放(邈)一(邈)雲(邈)霧(邈)と(邈)動(邈)る(邈)
 味(邈)方(邈)未(邈)後(邈)と(邈)亡(邈)して(邈)後(邈)軍(邈)と(邈)好(邈)核(邈)又(邈)保(邈)と(邈)出(邈)し(邈)指(邈)南(邈)車(邈)と(邈)造(邈)軍(邈)士
 と(邈)宗(邈)孫(邈)の(邈)我(邈)と(邈)挑(邈)ひ(邈)雲(邈)霧(邈)又(邈)霧(邈)と(邈)起(邈)一(邈)れ(邈)れ(邈)指(邈)南(邈)車(邈)と(邈)て(邈)欲(邈)陳
 り(邈)の(邈)皇(邈)と(邈)進(邈)め(邈)れ(邈)味(邈)方(邈)軍(邈)と(邈)乱(邈)さ(邈)る(邈)終(邈)に(邈)蚩(邈)尤(邈)と(邈)滅(邈)一(邈)日(邈)天(邈)下
 乃(邈)民(邈)を(邈)徳(邈)と(邈)さ(邈)く(邈)推(邈)て(邈)帝(邈)と(邈)し(邈)是(邈)れ(邈)炎(邈)帝(邈)と(邈)聖(邈)王(邈)なり

解妻養藥做圖



寫錦袋四

平解生婦登仙の薬とて月夜よの事
 帝光乃時画歌をて八夜宵ふらぐ平解に命しくおきて
 平しぬゆふ解ハ初とゆり我家とあて是と制と去ハ解と書
 解と書免美しきもこ様と亦好しゆふ今夜又他と書
 ころ夜ふゆて源園ふらぐ独り又夜暮て獲独とてと書
 解と書いといふやと痛くと痛くとさあひ休く年月と書
 解と書或敷長に解と書来と茶丸一顆と書とていふと書
 側と見れ心実ふ丸茶ありたり妻ふと書おわい我又
 りと書たる年んといふといひと書解と書乃時をゆ々か
 解と書平の法丈乃解又と書来て彼養のやと書休ふ
 解と書年山に入ると書いし時西玉母に不老不死の薬丸と
 解と書取り是と書お色の感と書あつと書と書といふと書
 解と書彼と書此余の下に書生乃契と書休と書とて休といふと
 解と書書い書くと書て解ふのりる解と書おその夜と書いれ
 解と書と書いといふと書月夜よの事ハ婦と書ありの事と書
 解と書と書いといふと書月夜よの事ハ婦と書ありの事と書

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、

續髮 金白令

梳冕

黃帝大舜湯王文王武王
 文宣王之像此圖ヲ用畫也



佩

踏椅

腰板

冕板

後白

直亮

前赤

倉頡四自生軒轅時已遠左右史以記言動頡誚誦實當左史任世
人減稱字從其制始因鳥跡而作字為萬世文字之祖蓋亦因其文
而增創耳耶謹按伏犧時已有書契



乾天卦坤地卦伏犧氏因河鳥跡之象
圖畫八卦手
心八字而象
畫也是書畫
之初也



倉頡鳥足
形見于造
字是字畫
始也此後字
象八體一十九



馬
尾也
倉頡馬
見于象



信
信上云字也



對
對



對
對



對
對



對
對

圖會曰按字字之體六曰鳥書在信上書端象鳥頭者則畫流漢末
太司空甄豐按字體有六其六曰鳥書即信上蟲鳥形書信上云
八天子之信名也其信二古文字二信信上書



群臣を驚かすことどもは但供の笑とてかて民甚くあり
 衆のれと馬公に命して治政の心馬勒とせり不承の
 切と成れりめは之を獲れりなれはを教養に一男子未三浦
 乃名嘉と穿はれ一冊の書と持我の天乃使ふなり天帝の
 一と小天下の病に治らんこととせりよ中人其のては
 授らばは治る治政の心馬勒とせり不承の
 入る馬公養をて見給へど一冊の程のりて是と視た
 此と次日人歩よ分付て候と之程状と聞ては川九列
 と通一と海と渡へ九と成て既日は水の流と治め治め
 云と候りぬ小と示を除して交連と云怪物のその形
 大本のゆゑと又思ふ長と十余とより思へれば治る

と儼り一と家と一と民ととて高下にて下知しこれ
 射殺と又一の歎みてはとと強きゆきの飛つわくと福
 八の首八の足耳同俱よなり又案と備へて射とては
 肉小恙とてかく治る治とせり大は嘆と抱固と小是
 爰に又使と来り告て曰けり天果と云治めり食は死せと



中策とて覽と我の
 意小これと治の十と
 忽雲霧の波息と流
 らる波とあかりを
 ね流治り手のかた
 依人安とてはと小
 居百姓地代はと
 後民の食とを治り



長島王に過か小宮船毎は風幸
 大禹の黃帝の玄孫なり天性敏給克勤て徳遠つに
 至た親しきまを信じて法めと治めて大ふ切りの故に
 舜の祥と文く帝位に仰さ天下と分れて九列に
 田去るるが法たら貢税の式を定井田を田畠と井
 のを分かく分らる中一川と年貢ふり出り八川の農民
 の徳用を以て下を定たまふ万民親樂て天下大は治る或
 禹王自ら方に巡遊するふるまはるに後りぬふは忽ぬ
 起て黃龍船と犯と舟中の人懼て大ふ哭禹王舟の覆
 らんころの代りて大は嘆き天は怒て某命を以て小文
 カと賜して萬民を救ふ奈何を能ふ某は之を以て劍を授て
 うら振るくを詔はを感はるそれ首を伏尾を低く去
 めに推く王は舟恙なく所ふるに古今詔ふは龍の
 あり又詔詠集るとい侍あり



劉黑龍肉と醜とする事

夏禹より十六代の帝と孔明と云尼并と好い流れと
 幸より改道正しくさしり一日柏門の外に醜龍二匹の
 然天より降て降らる事をも奇異と群臣小言茶史と
 いふは奏して曰これ吉祥の瑞おあり宜しく是を養て
 かのつゝ志を得たす帝奏は流いどおら劉累と
 云は亦宣して是を養い劉累は飲食酒肉をして
 養畜しおこしつゝさしり或時醜龍をらまら死しり
 劉累は是を醜して帝に告げし孔甲是を食するに
 味をかける美なりなれし再び劉累に能く醜を
 して飲らしめし勅定は劉累は亦自ら死する事
 をも醜おもはるなれし醜龍はいつかて近付殺らる
 ゆん中と大よむもして殺中の逃去帝はははと笑天子

賜り武士三百人小命して醜を殺しし武士等養醜乃
 比もと醜龍一矢と扱て是を射り醜はさく雲に遁る
 物多れん勇と難してさしり擡げん急なかる曇り風
 中より小吹降く雲と半空に捲し三百人の武士は池
 中に挿入雷電三日まてびと帝是より病を交し遂に
 植御評して曰四靈の物醜より雲のや醜は小なれ
 雲化し飛騰量測しとぬ小降降之際雷電風雨を并奏し助
 雲氣晦暝山嶽形と失ひ江河溢流震蕩執り醜の是に
 近付んや怒擾害すてん半るは是より必死の時或ひは
 異物醜の形は青なるをのりてぬふとんと書すとぬる死を
 伝せぬと或曰ゆら三百の武士醜のこめ小池中に挿入道と
 云と此より教人が白毛の醜と云ふ成りてうくのやうなあり
 文舞と云の也今畫工の醜と云ふ白毛にや巻く画と勢と寫す醜也



伊尹の元華と云ふ所の農民の成湯公を賢く知りて
 乃ち其の夏桀を伐つて成湯を立す。伊尹十
 面理の謀を成し遂に桀を亡し成湯を立す。伊尹十
 謀を成し遂に桀を亡し成湯を立す。伊尹十
 伊尹政と稱す。二三年大甲の悔に仁義の遷るを大甲と云ふ

伊尹之像



贊曰

維尹未遇耕於有莘闢々自得堯舜君民二使往聘幡然而起
 五就五反推壑若已嗣王不惠亦子之辜克終允德可以托孤

殷高宗字曰武丁一畝仰爰小白殷の將ありて政と斷き長天下治
 之を見たりと爰て後を治るの免と爲すを盡して其れ何ぞ人
 君ては年々十とてまゝ用く衆一のたす人衆して版築の同
 小一人の爲りたる所の縁邊と合せたりしは少く遠く希らるる
 のかこれけ人衆用て政事とゆひたりたりたりたりたりたり

贊曰

身蘊綸隱香靡中實天生德聖自神通作
 相商邦啓凌宸衷為霖一代萬古長風

傳之說像



設けし娘こゝ宛愛し嬌雲
 と響て返すにやいし内
 中よと云ふ士合野と云ふ
 妖氣あり怪く悪魔は
 向てと見えれぬ死
 乃者瓶奉交ふあり
 雲仲子の目合は邪魅
 歸さ玉氏と救え
 何れは八十年の松木
 と考て一川の叙なり
 付王に献て今妖氣交ふ
 縁の室叙と事ぬらあつ
 退さ云へと玉氏と是と平
 地己か白雲より浮園小生
 く叙我ととれどを云と為
 是の雲仲子邪術よりて我を運
 物ありと玉氏叙と縁持より
 雲の目くは浮園小生と云ふ



雲仲子

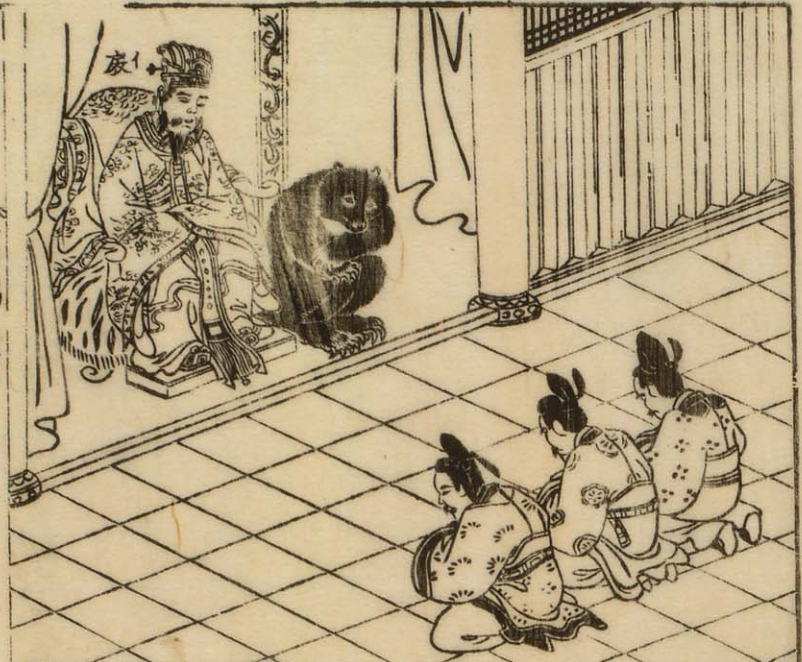




公登陸八呂石高之云
 夫天文地理の如くめ
 軍法は連一聰の處者
 されども時を過さず極
 く倉一殿の付まらざる
 事なきを遊く間
 文王の地徳り福徳と
 云はれぬ物とて世
 後り道と知くはつと云
 水ぬけ石義の富貴と知
 るを清貧と云い其の心
 と云その食者に徳を離
 けり下と云呂尚の回戦年
 分はかりたる必と甘ふ
 海等と安樂をりし時

寫錦袋四

今更らばく時を待たずして毎日海濱にありて魚を釣る一
 日妻物成持りねと望望然見るに魚一川にありて人
 魚と物と曲と並ぶれり解と申書想て曰とてさへ
 慨然と云ふこの下と時を過さると云いけい物と云ふは
 の魚味あることわれり野く難けりて回里ふより老翁と云
 安くと下と云呂尚の回戦年と云わぬと云て物かこゝれ
 事とぬまに並ぶる物よかりん天命の盡くる魚をれんて生
 との牛又あわの方に高く奔馳るる雲のり二年の内を
 往來する我と運する也と時海と雲をかりしあり今もその
 困苦と物と下とてさへ云ふよと云ふと云ふと云ふと
 先子は男八に及び世もあつと云ふと云ふと云ふと云ふと
 事す我とてお老翁りたると云ふと云ふと云ふと云ふと
 と云ふの事いひつらんと云ふと云ふと云ふと云ふと
 と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと



寫錦袋四

細の文を一紙愛小一の
 熊を南より飛入側
 倚り小面宮へお好依を
 とりて見せ後群臣
 小言たまふ教宣生を白
 熊の良歎きりて後群
 生するゆへは是も公賢
 おとほりつ下層の細
 も仰り百友持整とて
 君のたぢも相このも
 公よりしりて南に備
 して賢人成束のなま
 文主の回覧かんて後と
 るんらん宜せのま
 けり 鷹のそよぶの奈
 良御と見ても賢人の

三十一

おとほりつ下層の細
 も仰り百友持整とて
 君のたぢも相このも
 公よりしりて南に備
 して賢人成束のなま
 文主の回覧かんて後と
 るんらん宜せのま
 けり 鷹のそよぶの奈
 良御と見ても賢人の
 野小聘をひし時とこ
 へんとおりあはば紫
 賢人は逢たまらん文
 たりた人志子の御ふ
 う中身方礼跡りり
 知りたすひ呂者に
 のまたる尚字のひ牙
 然愛にへんい人あり

四三巻終